

## 渡辺復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見録

(平成31年3月24日(日) 14:18~14:22於) 石巻市総合運動公園)

### 1. 発言要旨

本日は、当地宮城県石巻市で開催されました、「ありがとう聖火台 感謝の集い」に出席をさせていただきました。旧国立競技場の聖火台は、まさに「復興のシンボル」として、多くの市民に親しまれていたと伺いました。

旧聖火台が被災地の皆様方を大いに勇気づけ、震災から立ち上がる力を与えてきてくれたことに思いを致すときに、改めて、オリンピック・パラリンピックが持つ無限の力と、被災地復興を後押しする復興五輪の意義を再認識するところでもあります。

今回、旧聖火台が返還されますが、石巻市では1年後に「復興の火」が最初に展示される予定であり、また、旧聖火台も今後、岩手県、福島県において順次展示される予定と伺っております。

これらの取組により、「復興五輪」として更なる機運の醸成が図られることを期待しております。

このほか、被災地では競技開催や、復興「ありがとう」ホストタウンなど、様々な取組が予定されております。復興庁としましても、これらの取組が円滑に実施されるよう、被災地、組織委員会等としっかり連携するとともに、在京大使館への情報発信をはじめ、あらゆる機会を捉えて、復興の状況や被災地の魅力の発信を行ってまいり所存であります。

### 2. 質疑応答

(問) この聖火台は、石巻の人たちにどのようなよい効果であったり、印象を与えていたと思いますか。

(答) 今日の「ありがとう聖火台 感謝の集い」を見ていただくと、お分かりになりますが、若い、子どもたちの、聖火台に対する思いが、本当に身近に感じられたというふうに思っております。次の世代を担う子どもたちにとって、大きな影響を与えたのではないかと、そのように思っております。

(問) これからの子どもたちや地域の人たちに、石巻から聖火台がなくなってしまうわけですが、改めてこの与えた影響から、どのようなふうな復興とかに進んでいってほしいというふうに考えますでしょうか。

(答) この聖火台、持つ意味というのは、私は大きな意味があるというふうに思っております。今まであったこの旧聖火台がなくなってしまうと思いますが、この旧聖火台がなくなった、あの後の台座の上に何ができるか、私は逆に言うとお楽しみにしております。まさに

聖火台が復興のシンボルであったということは間違いございません。石巻市にとっても、更にこの復興を後押しするような、何かシンボリックなものができる大変うれしく思います。

(以 上)